

渡良瀬遊水地 ラムサール条約湿地登録10周年記念パンフレット  
修正対応整理表

No	箇所	指摘者	指摘事項	対応内容
1	p.1～2	ラムサール湿地ネットワークわたらせ楠氏	「わたらせ遊水地の概要」の右側の説明文（地図の横）と p.2 の「ラムサール条約と渡良瀬遊水地」の説明文が重複しているので、工夫が必要である。また、西暦表記と年号表記は統一できない事情があれば（）付きで表現した方がよい。	p.1 の方の説明文を簡潔（ラムサール条約湿地である旨のみを記載）にし、p.2 に詳しい説明を載せるという構成にしました。 また、西暦表記に統一しました。
2	p.3～4	アクション財団 午腸氏	一般の方をターゲットとするなら、利活用協議会の概要は後の方で良いと思う。	「利活用協議会や関連する自治体・団体についての活動を中心に紹介する。」という本パンフレットの作成の趣旨が伝わるよう、利活用協議会の概要の説明は今の位置のままとしました。
3	p.3	ラムサール湿地ネットワークわたらせ楠氏	構成団体の「コウノトリ・トキの舞うふるさとおやまをめざす会」は変更になっていないか、小山市に確認する。	小山市よりこの名称で良いとのご回答をいただいたため、そのままとしました。
4	p.3	事務局意見	「渡良瀬遊水地保全・利活用協議会の構成団体」の頭文を以下の文に修正する。  「46の団体等で構成されています。（令和4年3月末時点）」	ご指摘の通り修正いたしました。
5	p.5～6	事務局意見	見開きで「保全・再生」のページとする。 内容は、元々の「保全・再生」の内容と、湿地再生とコウノトリの飛来・野外繁殖の内容とする。	ご指摘の通り修正いたしました。
6	p.5	わたらせ未来基金 塚田氏	「生きもの見つけ大作戦」の写真はわたらせ未来基金の活動と思われる。（2019.8.18、小山市も後援）だが、文面は「お魚ワイワイ大作戦」のように思われる。 その後、小山市も「生きもの見つけ大作戦」の主催者になっているため、タイトルをそのままにするのであれば、文面の微修正でも良いと思う。	「外来種駆除」の取組みを紹介している箇所であり、「おさかなワイワイ大作戦」の方が正しい内容です。（タイトルと写真の誤りです。） ⇒タイトルと写真を「おさかなワイワイ大作戦」のものに差し替えました。
7	p.5	野木町 浅井氏	「外来種駆除」「ヤナギ・セイタカアワダチソウ除去作戦」に野木町を追加。	ご指摘の通り修正しました。

8	p.6	ラムサール湿地ネットワークわたらせ楠氏	ラムサール条約登録の大きな柱である「治水と湿地保全・再生」の両立を目指していたので、この10年間で湿地再生の状況（効果）を記載したい。 第2調整池500haでは、2012年に2.8haだった水辺（池）の面積が、2020年9月には84.4ha（約30倍）に増加している。	※下記に合わせて記載
9	p.6	ラムサール湿地ネットワークわたらせ楠氏	No.7でも一部記載したが本パンフレットは10年間でどう問題意識をもって、どう対策・対応して、どんな結果になったとの評価の総括が必要である。（問題点、課題含め） 地勢的にはNo.7で述べたが、掘削による湿地（水辺）の増加であるが、植物系では…野鳥系では…昆虫系では…とそれぞれの評価がある。 団体も国交省でもその見解を持っているので、それを求めての評価を記載すべきと思う。 予想しなかったイノシシの獣害が出てきた。これらも問題点として挙げ、今後の宿題になる。 パンフレットをどんな人々に配布するかによっても、記載の割合が変わってくるが。	p.6に湿地の掘削事業と湿地面積、動植物の数の変化について整理し、追加しました。 なお、湿地面積は2021年3月時点の最新のデータに差し替えました。 また、植物の種数と鳥類の重要種数は、国土交通省が実施した「河川水辺の国勢調査」の2022年2月24日時点の最新データより引用しました。
10	p.6	わたらせ未来基金塚田氏 ラムサール湿地ネットワークわたらせ楠氏	「わたる」・「ゆう」の誕生は2020年、「りょう」・「のぞみ」は2021年に誕生である。	ご指摘の通り修正しました。
11	p.6	ラムサール湿地ネットワークわたらせ楠氏	「コウノトリの飛来・野外繁殖」に期待を持たせたい。（印刷時に間に合えば今年状況を入れたい。） ～「ひかる」「レイ」ペアに誕生しました。”そして、2022年も、、、”～	以下の文章を追加しました。 「2022年以降もコウノトリの飛来・野外繁殖の実現を目指して、周辺自治体・団体が連携し保全活動・観察を続けていきます。」
12	p.6	事務局意見	「コウノトリの飛来・野外繁殖」の文章を以下の通り修正。 2行目「採食」⇒「採餌」 3行目「計5カ所」⇒「計3カ所」	ご指摘の通り修正しました。
13	p.7～8	事務局意見	見開きで「ワイズユース」のページとする。	ご指摘の通り修正しました。 5周年記念カードの内容も追加いたしました。

			内容は、元の「ワイズユース」の内容（ふゆみずたんぼは削除）、トータルデザインの情報、利活用協議会や市町が作成したパンフレットの紹介とする。	栃木市作成のサイクリングロードマップの紹介文については、市からいただいた文章に差し替えました。
14	p.7～8	事務局意見	p.7の下部に「トータルデザイン」を、p.8の上部に「ロゴマーク」が来るよう、場所を入れ替える。 また、「トータルデザイン」の写真は看板の写真やキーエレメント等に差し替える。	ご指摘の通り修正しました。
15	p.7	野木町 浅井氏 事務局意見	「ヨシズづくり」に栃木、野木の情報を追加。 （「小山市の生井地区、栃木市の藤岡地域、野木町の野渡地区で～」とする。）	ご指摘の通り修正しました。
16	p.7	栃木市 青木氏	「スポーツアクティビティ」の説明文を、送付した案の通り差し替える。	ご指摘の通り修正しました。
17	p.9～10	事務局意見	見開きで「交流・学習」のページとする。 内容は、元の「交流・学習」の左側の内容、ヨシ灯りや4市2町を対象とした交流学习の紹介とする。	ご指摘の通り修正しました。
18	p.9	ラムサール湿地ネットわたらせ 楠氏	p.9の環境学習の促進に「渡良瀬子ども自然塾の活動」を追加したい。	ご指摘の通り修正しました。
19	p.9	野木町 浅井氏	「環境学習の促進」について、各市町で行っている事業を踏まえ表現を変更。（例：野木町ではツバメのねぐら入りや植物観察会を行っています。）	ご指摘の通り修正しました。
20	p.11～12	事務局意見	年表を最後のページに移動する。	ご指摘の通り修正しました。
21	p.11～12	アクリメーション財団 午膳氏	年表で示した取組みの内容すべてをp.5～10のような形で、個々に説明（写真付き）してはどうか。 （10年間で各団体が取り組んだ内容を整理・記録する意味も込めて）	本パンフレットの趣旨（ラムサール登録後10年間の主な活動の流れを一般の方にご紹介する。）に対して、年表の取組み全ての概要を解説する必要は無いかと考えておりますので、そのままとしました。
22	p.11	板倉町 森田氏	年表に『2011年 重要文化的景観「利根川・渡良瀬川合流域水場景観」が国選定』を追加する。	「ワイズユース」の項目として追加しました。
23	p.11	事務局意見	凡例の利根川上流河川事務所を一番下に移動する。	ご指摘の通り修正しました。
24	裏表紙	事務局意見	渡良瀬遊水地に関する情報発信の内容を掲載する。	ご指摘の通り修正しました。
25	裏表紙	古河市 稲垣氏	交流イベントの実施・発信について、「8月上旬 古賀花火大会（古河市）」を追加してほしい。	ご指摘の通り修正しました。
26	裏表紙	野木町 浅井氏	「交流イベントの実施・発信」の野木町のイベントを修正。	ご指摘の通り修正しました。

27	裏表紙	事務局意見	「交流イベントの実施・発信」の頭文を以下に差し替える。 「4市2町により、年間を通して渡良瀬遊水地に関する様々な交流イベントを開催しています。」	ご指摘の通り修正しました。
28	裏表紙	ラムサール湿地ネットワークわたらせ楠氏	下部の文に以下を追加 ～”いろいろな団体などの”各種イベントの最新情報は～	以下のとおり修正しました。 ～"色々な団体による”各種イベントの最新情報は～
29	裏表紙	事務所意見	各種イベントの最新情報を掲載しているページのURLを記載する。	ご指摘の通り修正しました。

# 渡良瀬遊水地に関する情報発信

## 情報発信施設

渡良瀬遊水地では、下図の施設で渡良瀬遊水地の利活用及び湿地環境等に関する情報を発信しています。

渡良瀬遊水地ハートランド城

渡良瀬遊水地湿地資料館

わたらせ自然館

渡良瀬遊水地コウノトリ交流館

体験活動センターわたらせ

野木ホフマン館

道の駅かぞわたらせ

● 車両通行可能道路(舗装)  
● 自転車・徒歩通行可能道路(舗装)  
● 舗装なし道路

## 交流イベントの実施・発信

4市2町により、年間を通して渡良瀬遊水地に関する様々な交流イベントを開催しています。

時期	イベント名	時期	イベント名
3月中旬	三県境フェア (栃木市・加須市・板倉町)	8月上旬	古河花火大会 (古河市)
4月上旬	渡良瀬バルーンレース・藤岡さくらまつり (栃木市)	10月	煉瓦窯秋フェスタ (野木町)
4月中旬	生井桜まつり (小山市)	10月上旬	渡良瀬遊水地まつり in KAZO (加須市)
5月	煉瓦窯春フェスタ (野木町)	10月下旬	ヨシ灯り展 (小山市・栃木市)
7月	渡良瀬遊水地フェスティバル (栃木市)		

渡良瀬遊水地内で開催される様々な団体による各種イベントの最新情報は、一般財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団のホームページ (<https://watarase.or.jp/event/>) にて、随時公開しています。  
《右の二次元コードよりアクセスできます。》

二次元バーコード



# ラムサール条約湿地 渡良瀬遊水地

ラムサール条約湿地登録10年間の歩み

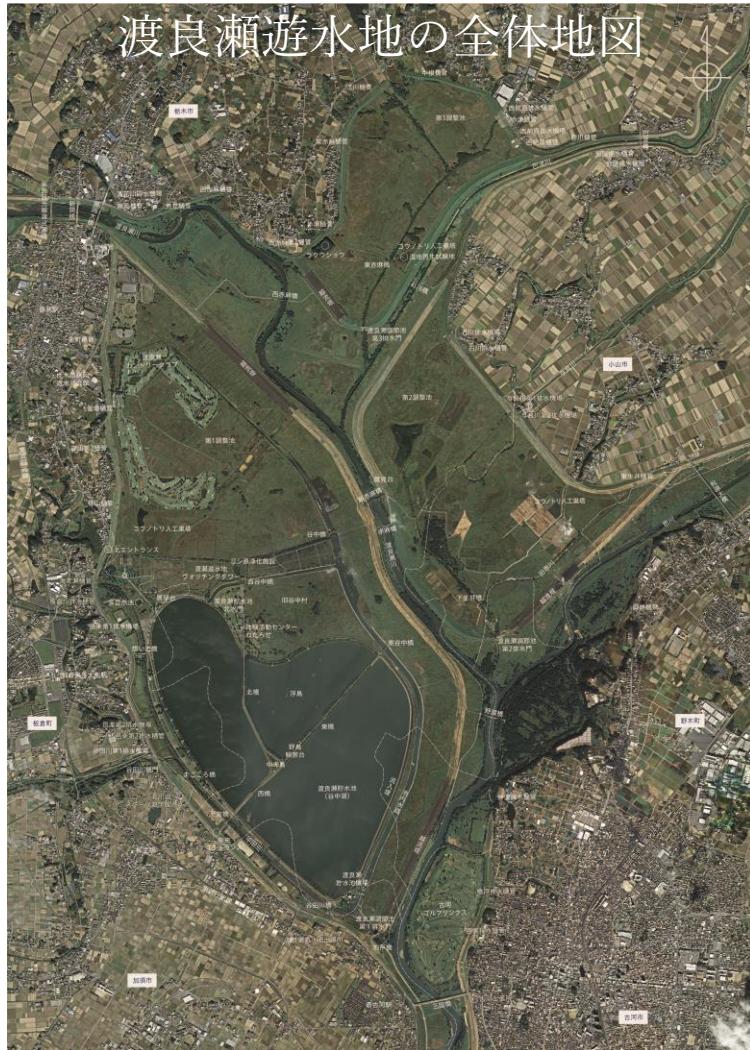


渡良瀬遊水地保全・利活用協議会

制作：渡良瀬遊水地保全・利活用協議会  
発行年月：2022年●月

お問合せ：国土交通省利根川上流河川事務所調査課 TEL0480-52-3958

# 渡良瀬遊水地の概要



渡良瀬遊水地は、栃木・茨城・群馬・埼玉の4県4市2町にまたがる本州以南最大の湿地で、治水の要として首都圏の生命・財産を守っています。

ラムサール条約に登録された、国際的に重要な湿地であり、絶滅危惧種のチュウヒをはじめ、貴重な動植物が多数生息する「自然の宝庫」です。



## 治水・利水施設としての役割

●渡良瀬遊水地の治水機能  
渡良瀬遊水地は、増水した川の水を一時的に貯め洪水被害を防ぎ、地域と首都圏の安全な生活を支える重要な役割を担っています。  
2000年以降、渡良瀬遊水地周辺で大規模な台風・大雨による被害が7回あり、特に2015年9月の関東・東北豪雨では、約1億700万m<sup>3</sup>を、2019年11月の台風19号では、過去最大の約1億6,000万m<sup>3</sup>を貯留しました。

●渡良瀬遊水地の利水機能  
渡良瀬遊水地にあるハートの形をした池は「渡良瀬貯水池(谷中湖)」です。渡良瀬貯水池は、首都圏が水不足になった際に、利根川上流のダム群との連携により生活用水の補給や河川に流れる水量を適切にする働きを有しています。また、品質の良い水を供給するため、自生するヨシを活用した水質改善対策を行っています。

表：2000年以降の主な台風・大雨

発生年	名称	貯留量
2001年	台風15号	約8,100万m <sup>3</sup>
2002年	台風6号	約7,800万m <sup>3</sup>
2007年	台風6号	約5,400万m <sup>3</sup>
2011年	台風15号	約4,900万m <sup>3</sup>
2015年	関東・東北豪雨 (台風17・18号)	約1億700万m <sup>3</sup>
2017年	台風21号	約5,500万m <sup>3</sup>
2019年	台風19号	約1億6,000万m <sup>3</sup>



# ラムサール条約と渡良瀬遊水地

渡良瀬遊水地は東京から60km圏内にありながら、3,300haという広大な敷地に湿地としての環境を保っていることで貴重な空間となっています。特にヨシ原は1,500haと、本州では最大の面積を誇っています。

こうした豊かな環境には、さまざまな動植物が見られます。チュウヒなどの猛禽類をはじめとする鳥類や、ミズアオイをはじめ1,000種以上に及ぶ植物が見られ、まさに自然の宝庫といえるでしょう。

また、ヨシ焼きなど人が手を加えることで自然を活かす営みも昔通りに続けられています。豊かな自然と手をたずさえて人が生きている、それが渡良瀬遊水地なのです。  
渡良瀬遊水地は、2012年7月にラムサール条約湿地に登録されました。登録の目的は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地及びそこに生息する動植物の保全と、その適正な利用（ワイズ・ユース）の促進」となっています。

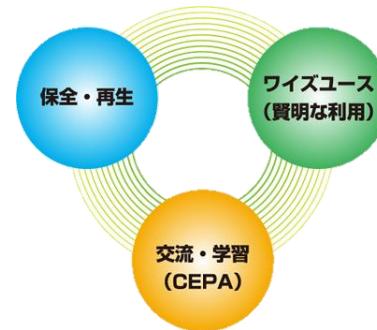


## ラムサール条約とは？

ラムサール条約は1971年2月2日にイランのラムサールという都市で開催された国際会議で採択された、湿地に関する条約です。正式名称は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といいます。  
日本国内では2021年11月現在、合計53か所の湿地が登録されています。

## ラムサール条約の3つの柱

条約の目的である湿地の「保全・再生」と「ワイズユース（賢明な利用）」、これらを促進する「交流、学習（CEPA）」。これら3つが条約の基盤となる考え方です。



- ①保全・再生  
水鳥の生息地としてだけでなく、私たちの生活を支える重要な生態系として、幅広く湿地の保全・再生を呼びかけています。
- ②ワイズユース（賢明な利用）  
ラムサール条約では、地域の人々の生業や生活とバランスのとれた保全を進めるために、湿地の「賢明な利用（Wise Use:ワイズユース）」を提唱しています。「賢明な利用」とは、湿地の生態系を維持しつつそこから得られる恵みを持続的に活用することです。
- ③交流・学習（CEPA）  
ラムサール条約では、湿地の保全や賢明な利用のために、交流、能力養成、教育、参加、普及啓発（CEPA：Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness）を進めることを大切にしています。

# 渡良瀬遊水地保全・利活用協議会の概要

## 渡良瀬遊水地保全・利活用協議会設立の趣旨

ラムサール条約の目的に掲げられた「湿地の保全」、「湿地の賢明な利用」の実現のためには、遊水地の歴史を踏まえつつ、「遊水地の治水機能の向上」、「積極的な自然環境の保全再生」、「様々な利活用の促進」、「地域振興」を図るため、人々の参加・交流や情報交換、教育、啓発が十分行われた上での地域の合意形成が必要です。

渡良瀬遊水地保全・利活用協議会は、渡良瀬遊水地の継続的な保全と利用に関し、関係機関及び周辺の住民等が十分に対話し、有効に渡良瀬遊水地を活用していくために設立されました。

### 4つの「活動内容」

- ① 治水機能の向上及び利水機能の維持を含む遊水地の賢明な利活用を図る。
- ② 貴重な遊水地の生態系を護るため湿地の保全・再生を図る。
- ③ 人々の参加・交流や情報交換・教育・啓発活動を進める。
- ④ 渡良瀬遊水地及び周辺地域の地域振興を図る。

## 渡良瀬遊水地保全・利活用協議会の構成団体

46の団体等で構成されています。(令和4年3月末時点)

- ラムサール湿地ネットわたらせ
- 渡良瀬遊水地を守る利根川流域住民協議会
- わたらせ未来基金
- 谷中村の遺跡を守る会
- 渡良瀬遊水地ガイドクラブ
- 小山市渡良瀬遊水地エコツーリズムガイド協会
- 一般社団法人 栃木市熱気球クラブ
- 栃木県下都賀漁業協同組合
- 渡良瀬遊水地野鳥観察会
- コウノトリ・トキの舞うふるさとおやまをめざす会
- 渡良瀬遊水地関連地域活性化協議会
- ミカモライディングクラブ
- 渡良瀬遊水地第2調節池周辺地区治水事業促進連絡協議会
- 思川右岸生井地区堤防強化対策協議会
- 巴波・永野川築堤、堤防改修工事対策協議会
- 野木町川西地区治水事業促進連絡会
- 藤岡町巴波川周辺地区治水事業促進連絡協議会
- 小山市渡良瀬遊水地治水推進・ラムサール賢明な活用・周辺整備推進期成同盟会
- 渡良瀬遊水地スポーツ利用者等連絡協議会
- 特定非営利活動法人スカイダイブ藤岡
- 渡良瀬遊水地利用組合連合会

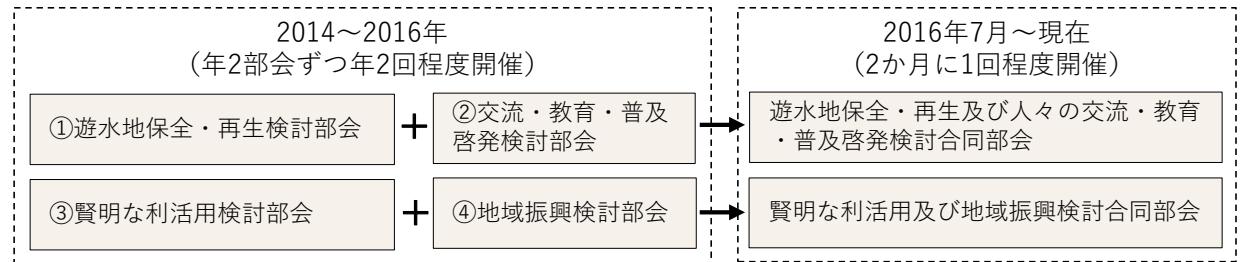
- 古河市行政自治会
- 部屋地区自治会連合会(栃木市)
- 藤岡地区自治会長会(栃木市)
- 赤麻地区自治会連合会(栃木市)
- 生井地区自治会連合会(小山市)
- 野木区(野木町)
- 板倉町行政区長会
- 加須市自治協力団体連絡会北川辺支部
- 藤岡土地改良区
- 思川西部土地改良区
- 古河市教育委員会
- 栃木市教育委員会
- 小山市教育委員会
- 野木町教育委員会
- 板倉町教育委員会
- 加須市教育委員会
- 一般財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション
- 振興財団
- 古河市
- 栃木市
- 小山市
- 野木町
- 板倉町
- 加須市
- 環境省関東地方環境事務所野生生物課
- 国土交通省利根川上流河川事務所

## 渡良瀬遊水地保全・利活用協議会の構成

協議会では、『4つの「活動内容」』を円滑に進めていくために、「遊水地保全・再生及び人々の交流・教育・普及啓発検討合同部会」と「賢明な利活用及び地域振興検討合同部会」の2つの合同部会を設けています。



なお、2014～2016年は①遊水地保全・再生検討部会、②交流・教育・普及啓発検討部会、③賢明な利活用検討部会、④地域振興検討部会の4つの部会を設け、毎年2部会ずつ活動を進めていましたが、より多くの検討課題に対応していくため、2016年7月に2つの合同部会に統合し、同時並行で検討を進めています。



## 渡良瀬遊水地保全・利活用協議会の活動成果

### 保全・利活用に係るパンフレットの配布 (一部紹介)

『渡良瀬遊水地探検ブック』

- 発行年：2017年
- 内容：渡良瀬遊水地に関する教育・普及活動の一環として、小学生向けの教材として作成しました。渡良瀬遊水地の①概要、②自然、③役割、④歴史、⑤暮らしの5つのテーマについて学ぶことができます。

『渡良瀬遊水地 湿地の保全と賢明な利活用をめざして』

- 発行年：2019年
- 内容：渡良瀬遊水地保全・利活用協議会で収集したコウノトリに関する情報、協議会の構成メンバーを紹介するパンフレットです。

## エコツーリズムの推進

エコツーリズムを推進するため、「自然観察会と周辺地域の周遊等」を組み合わせた有償ツアーを企画し、2019年(令和元年)11月10日に実施しました。(右図は当日の行程です。)

- 8:50集合/9:00出発
- 国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所のスタッフのご案内
- おさかなワイワイ(魚類調査)「地引き網」&「採網」体験
- ミニよし作り体験-DVD視聴、展望台観覧
- 名物なまず料理(昼食)ナマズは白身の魚で、天ぷらにするとうれいでフセがなく、ふっくらと柔らかく、とても美味しいと評判です。
- 参拝 ナマズ様を撫でてパワーをゲット! 撫でると地震を避け、元氣回復、視力改善、自衛が湧き出るなどの効果が期待されています。
- 平地三輪車体験&楽しい物 新島屋・旭木園・地玉の集落 歩いて三歩で回る三輪車はここだけです。
- 立ち入り禁止ゾーン見学(お絵描き&ドローン空撮付)
- 雑草づくり体験-雑草園見学
- 17:30～18:00解散予定

# 渡良瀬遊水地における取組み

## 保全・再生

### ヨシ焼き



渡良瀬遊水地では、ヨシヅ作りに必要な良質なヨシを育てるため、毎年3月にほぼ全域にわたり、「ヨシ焼き」が行われます。このヨシ焼きは、よいヨシを育てる以外に、自然環境を保全する次のような効果を持つことが注目されています。

- ①ヨシ原の樹林への遷移を抑制し、ヨシ原を保全する。
- ②ヨシが繁茂する前に生長する、多様な春植物の発芽に必要な十分な日照を確保する。

### 鳥類の保全



チュウヒをはじめとする多くのワシタカ類の越冬地である渡良瀬遊水地では、飛来する鳥類の個体数を調査するため、日本野鳥の会県支部などが中心となり、平成4年から「ワシタカカウント」を実施しています。

日本野鳥の会栃木県支部 提供

### 外来種駆除



●ヤナギ・セイタカアワダチソウ除去作戦  
小山市・栃木市・野木町ではラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」の貴重な湿地環境を保全するため、関係機関・団体やボランティアと合同で、湿地の希少植物の生育に悪影響を及ぼすヤナギやセイタカアワダチソウの抜き取り作業を平成26年度から実施しています。



●おさかなワイワイ大作戦  
小山市では、第2調整池にて、水生生物を駆逐してしまうおそれのある「オオクチバス」や「ブルーギル」等の外来魚の駆除を目的として、ボランティアと合同で、地引網による捕獲と在来魚との選別作業を実施しています。

### 湿地の保全・再生に向けた取組み

かつての渡良瀬遊水地には大小の池沼が点在し、多様な在来の植物などが生育していました。しかし、昭和30年代以降には地下水位の低下により湿地の乾燥化が進み、遊水地特有の貴重な在来の植生が失われ、セイタカアワダチソウ等の外来種が拡大するなど環境が悪化してきました。



そこで、失われた湿地環境を再生するために、乾燥化し環境が悪化した場所を掘削し、かつての湿地環境の再生を目指す取組みが国土交通省 利根川上流河川事務所を中心に進められています。この取組みの結果、2012年時点では2.8haだった湿地面積が、2021年3月現在では、約90.8haまで拡大しました。

そのほか、各自治体や団体によるヨシ焼きや外来種駆除等の環境保全活動も進められています。これらの取組みの効果もあり、遊水地内に生息する動植物の数も回復しつつあります。特に植物の種数は、969種（2009年）から995種（2018年）に増加したほか、鳥類の重要種数も68種（2007年）から77種（2017年）に増加しました。

	ラムサール条約登録前	ラムサール条約登録後
植物の種数	969種（2009年）	995種（2018年）
鳥類の重要種数	68種（2007年）	77種（2017年）

### コウノトリの飛来・野外繁殖

渡良瀬遊水地の周辺自治体・団体では、コウノトリの定住促進のための取組みに力を入れており、採餌できる水田を増やすためのふゆみずたんぼ・なつみずたんぼや、デコイ（鳥が仲間の姿を見つけて集まる修正を利用した模型）の設置、人工巣塔（遊水地内に計3か所）の設置などの取組みがなされています。



遊水地周辺の水田で採食するコウノトリ



デコイに近づくコウノトリ



人工巣塔へ巣材を運ぶコウノトリ

内田孝男氏 提供

このような取組みの効果もあり、2014年以降、渡良瀬遊水地ではコウノトリの飛来が確認されるようになりました。

特に、2018年にはコウノトリが長期滞在して巣作りをする様子が確認され、ついに2020年には東日本初となる野外繁殖によるコウノトリのヒナ「わたる」、「ゆう」が「ひかる」・「歌」ペアに誕生しました。

また、2021年にはコウノトリのヒナ「りょう」、「のぞみ」が「ひかる」、「レイ」ペアに誕生しました。

2022年以降もコウノトリの飛来・野外繁殖の実現を目指して、周辺自治体・団体が連携し保全活動・観察を続けていきます。



「りょう」が巣立ちする瞬間

横田耕司氏 提供

# 渡良瀬遊水地における取組み

## ワイズユース（賢明な利用）

### ヨシづくり



1907年に谷中村が廃村になり、人が住まなくなった土地や耕作地には、良質なヨシが自生するようになりました。ヨシづくりが大きな産業になったのはその頃からのこととなります。

ヨシは、12月から翌年3月に収穫し、加工されます。以前は、小山市の生井地区、栃木市の藤岡地区、野木町の野渡地区で100軒以上の農家が、農閑期である冬期の収入源としてヨシづくりを盛んに行っていました。昭和50年後半から輸出品やビニール製品が普及してきてヨシ産業は衰退。今では数件を残すだけになりました。

### スポーツアクティビティ



渡良瀬遊水地の上空には障害物がほとんど無いため、熱気球、スカイダイビングなどのスカイスportsが盛んです。

また、谷中湖を利用したカヌー・ウインドサーフィン・ボートなどのウォータースportsや釣りをはじめ、遊水地内を巡るサイクリング・マラソン・ウォーキングも毎日のように楽しまれています。さらに、ゴルフ場やグラウンドといったスポーツ施設が充実していることもあり、渡良瀬遊水地はさまざまなスポーツアクティビティを楽しむことができる場所として、多くの人々から親しまれています。

### トータルデザイン



地域の個性や価値・魅力を明確に伝えるための戦略（＝トータルデザイン）の考えに基づき、関係者が共通する目指す将来の姿（コンセプト）の下で、情報発信を行うための、分かりやすい標語（スローガン）やイメージ（キーエレメント）を作成しました。

また2020年には、このトータルデザインに基づき作成した案内看板を、第二調整池の堤防上に設置しました。



渡良瀬遊水地  
Watarase-yusuichi

### ロゴマーク



渡良瀬遊水地保全・利活用協議会では、2012年7月にラムサール条約湿地登録から5周年を迎えるにあたり、ロゴマークを募集・決定しました。

コンセプトは「渡良瀬遊水地は4県にまたがる、多様な生き物の憩いの場」で、4つの曲線は、栃木・群馬・埼玉・茨城の「4県」と野鳥・植物・昆虫・魚の大きく分けて「4種」の多様な生き物からなる遊水地の生態系を表しています。

中央のハートは「ハート池」の形を象っており、「生き物の憩いの場」という意味を込めました。色は4県のマークの色と、水をイメージした色を使用しました。親しみやすさとマークとしての汎用性を考え、全体を円の形にまとめました。

### 広報資料

『渡良瀬遊水地自然と人にやさしい10のマナー』

- 発行年：2015年
- 渡良瀬遊水地保全・利活用協議会
- 内容：渡良瀬遊水地の貴重な自然を保全し次世代に引き継ぐため、また渡良瀬遊水地を訪れるたくさんの方が安全に渡良瀬遊水地を利用できるよう、安全な利用のためのマナーをまとめました。

### 『渡良瀬遊水地ラムサール条約湿地登録5周年記念カード』

- 発行年：2017年
- 渡良瀬遊水地保全・利活用協議会
- 内容：ラムサール条約湿地登録から5周年を迎えるにあたり、計7種類の記念カードを配布しました。



『渡良瀬遊水地サイクリンググロウドマップ』

- 発行年：2021年
- 栃木市
- 内容：渡良瀬遊水地における自転車利用をより楽しんでもらえるよう、初心者から上級者まで楽しめるおすすめのコース情報や周辺施設をまとめました。また、皆さんが安全に走行できるよう、利用ルールを記載しマナー啓発を行っています。

『わたらせシールラリー2020』

- 発行年：2020年
- 渡良瀬遊水地保全・利活用協議会
- 内容：期間中に開催される対象イベントに参加することでもらえるシールを集めて、応募するイベントです。

### 『渡良瀬遊水地キャラクターアニメーション(仮)』

- 発行年：2022年
- 栃木市
- 内容：※完成次第追加

# 渡良瀬遊水地における取組み

## 交流・学習

### 環境学習の促進

一財) 渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団、わたらせ未来基金、各自治体などが中心となって、定期的に渡良瀬遊水地の自然環境について学ぶイベントが開催されています。

#### ●小・中学生を対象とした環境・体験学習の支援



渡良瀬遊水地の自然環境を活かし、小・中学生を対象に動植物・歴史等をテーマとした環境・体験学習の支援を定期的に行っています。

また、夏期には小学生を対象に「夏休み宿題サポート教室」を開催しており、遊水地内の動植物・歴史についての質問を専門家に相談したり、ヨシや石を使った工作を体験したりできます。



「渡良瀬子ども自然塾」では、渡良瀬遊水地と周辺地域の自然や伝統とのふれあいを通じて、子ども達の生きる力と地域や自然環境を大切にする心の育成を目指して、小学生を対象に毎年10月から4月まで月1回開催しています。

毎月季節に合わせて以下の催物を行っています。

- ・遊水地のヨモギ摘みと草餅つき
- ・遊水地内での生きもの調査

#### ●動植物観察会



渡良瀬遊水地の自然環境への理解を深めていただくために、定期的に野鳥や動植物の観察会を定期的に行っています。

また、ツバメのねぐら入りツアー（8月頃）、チュウウヒのねぐら入りツアー（12月頃）など、観察イベントも随時開催しています。

### 民間企業のCSR活動



渡良瀬遊水地で行われる「ヤナギ・セイタカアワダチソウ除去作戦」や「渡良瀬遊水地クリーン作戦」などの環境保全活動には、CSR活動※の一環として、毎年多数の民間企業が参加します。

※CSR (Corporate Social Responsibility) とは、利益追求・法令遵守だけでなく、あらゆる利害関係者（社員、消費者、環境、地域社会など）の多様な要求に対して企業が適切な対応をとるといふ、企業の社会的責任のことです。

### 渡良瀬遊水地の環境を活かした活発な教育・交流活動



渡良瀬遊水地では、豊かな自然環境を保全するための活動や、その環境を活かした教育活動・交流イベント・スポーツイベントなどが年間を通じて開催されています。特にラムサール条約湿地への登録後は、渡良瀬遊水地周辺の4市2町が連携してイベントを行う機会が増えました。

栃木市と小山市は、遊水地の特産品であるヨシを活用した「ヨシ灯り」でライトアップを行うイベントを実施しています。

4市2町の小学生を対象とした交流学習について整理します。

